

J-FACE NEWS LETTER

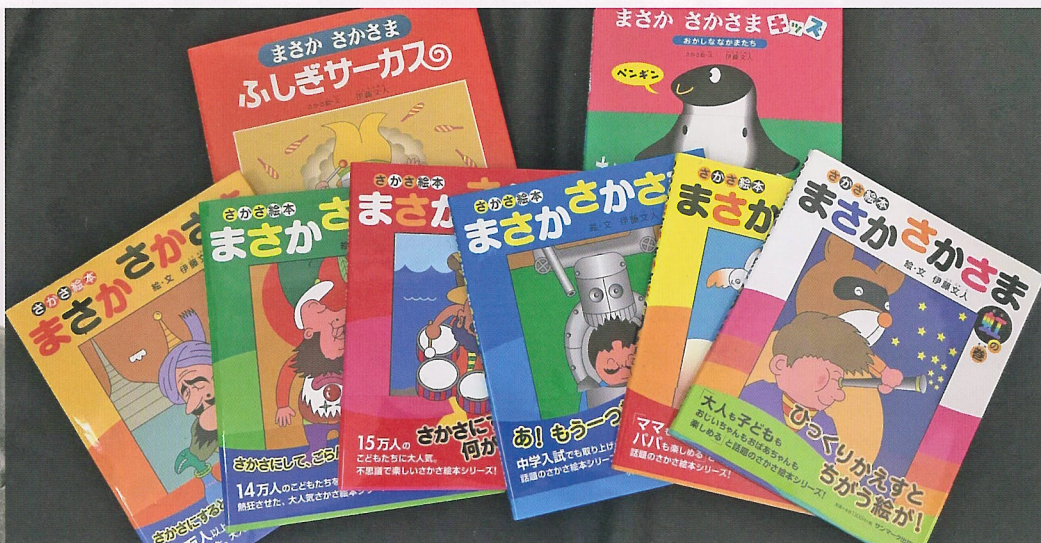
日本顔学会ニュースレター 76号



3 SEPTEMBER 2021 Vol.76 <https://www.jface.jp>

Contents

- P1. Now the Face
- P2. 顔学オンラインサロン報告 第23回~第25回/日本顔学会若手交流会 第23回定期交流会報告
- P3. 化粧文化研究者ネットワーク研究会第57回報告/図書紹介
- P4. 顔学会ウラのカオ/第26回日本顔学会大会(フォーラム顔学2021)のご案内



第56回 今、を感じさせる
KAOの人物を紹介する

伊藤 文人さん
Ito Fumito

伊藤文人先生にご講演内容を伺ってみました。ちなみに、伊藤先生と私はFacebook友達です。

伊藤さんは、物をさかさに見る子だったそうです。いわば、へそ曲がり。小学校の教室や友人の家に遊びに行っても、床と同時に天井を見て部屋の広さを感じていたそうです。床には机や椅子やその他の物が置いてあるので、床を見ていると実際の広さがよくわからないのですが、天井を見ると部屋は結構広いことがわかるのだそうです。

小学5年生の時のエピソードを一つ。その年は西暦1961年だったのですが、「1961」はひっくり返しても「1961」と読めることに、伊藤さんは気づきました。このすばらしい発見ですが、教室の誰に話してもウケなかったそうです。さらに、1961の前は1881年、1961の次は6009、つまり6009年まで4048年もあるのだ、とみんなにたたみかけたところ、スルーされてしまった(笑) そうです。ちなみに、デジタル

[プロフィール]

1974年に株式会社日本リクルートセンターに入社(グラフィックデザイナー)、1999年に株式会社リクルートを退職、フリーランスに。1999年のM.C.エッセイ生誕100年に捧げる『超感覚ミュージアム』金賞受賞など、受賞多数。主な出版物として、さかさ絵本「まさかさかさま」(全8巻)(サンマーク出版刊)、回文本「脳を鍛える さかさことば」(メディアファクトリー刊)、トリックアート本「歌川国芳×伊藤文人 あそび絵くらべ」(東京美術刊)、回文まんが絵本「キリン ねる ねんりき」(ポエムピース刊) などがある。日本グラフィックデザイン協会会員、日本回文まんが学会会長。

的な数字ですと、2002年もこれに当たるとのことです。

そんなさかさ好きの伊藤さんでしたが、若い頃は「さかさ絵」を描いてみようと思っていたわけではありませんでした。ヨーロッパの気味の悪いさかさ絵や、歌川国芳の百面相のさかさ絵を知っている程度でした。ところが、40歳を過ぎたある日、自宅の洗面所に鬼の顔のイラストが描かれたソーポボトルを発見しました。「あの鬼のボトルは何?」と奥さんに尋ねたところ、大笑いされました。ヒツジマークのボトルがさかさまに置かれていただけなのですが、ヒツジのイラストがさかさまになったら、鬼の顔に見えたというわけです。

この時、伊藤さんの「さかさ絵心」に火が着きました!

43歳の時、初めて応募した「第1回 全国トリックアートコンペ」(福井県三国町(現坂井市)主催、審査委員長/福田繁雄氏)にて、3位の奨励賞を受賞! その6年後、「M.C.エッセイ生誕100年に捧げる『超感覚ミュージアム』」にて、さかさ文字作品「ふるいけやの呪縛」がグランプリを獲得!!

同時に出品したさかさ絵作品5点が注目され、翌年、さかさ絵本『まさかさかさま』を出版!!! これ現在の「まさかさかさま」シリーズに繋がりました。

伊藤さんによれば、さかさ絵を描くのに一番必要なことは、見たものは何でもひっくり返して見てみることだそうです。交通標識でも電化製品でもなんでもかんでも、まずはひっくり返して見てみましょう。

さかさ絵心着火後のエピソードの一つ。あるトリックアートの公募展の表彰式で、伊藤さんは3位だったのですが、1位の受賞者が伊藤さんのさかさ絵作品（2枚の同じ絵を一方はひっくり返して展示）を見て、「伊藤さんの絵は面白いのですが、2枚の色合いが同じ過ぎます」とコメントしたそうです。同じ絵なのですから、当然色は同じです。つまり、その人は伊藤さんの受賞作品がさかさ絵だと気がついていなかったわけです。

このエピソードは、伊藤さんの大きい自信となったそうです。

さかさ絵でもっとも苦労することは、色だそうです。たとえば、可愛い女の子の顔をひっくり返したら、カエルになったとしましょう。モノクロの線画であればこれで完成だとしても、カラーではそうはいきません。どちらの色も同じですから、女の子を緑色にするか、肌色のカエルにするか、物語を変更して緑色の妖精にするか、腕の見せ所です。

伊藤さんのさかさ絵は全てカラー作品です。依頼されればモノクロデザインも描くそうですが、そういえば、私が知っている伊藤さんの作品は全部カラーです。

現在、伊藤さんは、さかさ絵だけでなく、トリックアートやだまし絵全般に渡って制作していらっしゃいます。伊藤さんのご講演は、フォーラム2日目（9月19日（日））の午前（11:25~12:25）です。お見逃しなく。（北岡 明佳）

顔学オンラインサロン報告 第23回~第25回

「顔学オンラインサロン」は「リモート時代」に対応しZoomを活用して学会のさまざまな活動状況を会員及び一般の方々にも広く知っていただこうと、2020年5月から月2回火曜日の夜に開催してきましたが、2021年5月からは月1回のペースになりました。

○第23回 5月11日（火）

話 題：なぜ僕は顔研究を始めたのか？

話題提供者：生理学研究所 柿木 隆介氏

聞き手：愛知県医療療育総合センター発達障害研究所
小林 恵氏

趣 旨 臨床医（内科、神経内科の専門医）だった私が、なぜ顔認知研究をはじめ、どのように研究を進めて行ったかをお話したいと思います。臨床医としてはかなりレアなケースなので興味を持っていただければ幸いです。

○第24回 6月8日（火）

話 題：ペルシャ湾岸女性の「仮面」という名の「顔」

話題提供者：東京外国語大学 後藤 真実氏

趣 旨 中東・ペルシャ湾岸地域で16世紀頃から着用されてきたという仮面。今日、イスラム女性たちの「顔を覆う」という行為は宗教的側面が強調されがちですが、仮面は着用者の個人的背景や美的感覚を表現し、女性の「顔」として機能してきました。今回は仮面を通じて多様に表現される湾岸女性の「顔」についてお話しします。

○第25回 7月6日（火）

話 題：「顔を見る」「顔を描く」その多様性を知る

話題提供者：立命館大学 高橋 康介氏

コーディネーター：中央大学 山口 真美氏

趣 旨 私たちのグループは「顔を見る」「顔を描く」に注目して、ヨーロッパ、アジア、アフリカなど世界各地でフィールドワークを行い、顔の認識と表現の多様性についての調査や実験を進めてきました。今回はフィールドワークの様子や、研究の成果、その中での顔の認識と表現の多様性についてお話しします。（城戸崎 雅崇）

日本顔学会若手交流会 第23回定期交流会報告

2021年2月20日、第23回の若手交流会がオンラインで開催されました。今回は、法政大学大学院の太田碧さんをお招きして、「かわいいキャラ顔とは？～女性キャラクターの相貌特徴と印象の関係～」をお題とした研究講演をしていただきました。

太田さんはコレスポンデンス分析を応用し、実写とキャラクターの顔に対する印象を一つの2次元散布図へとマッピングして解析されていました。そ

